

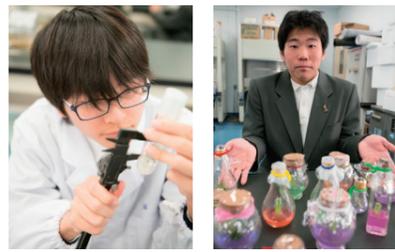
部が活んばれ

クラブ活動の魅力に大接近!

ユニークな指導法で好成績をあげていたり、部員全員が意欲を持って取り組んでいるなど、全国の活気あふれるクラブ活動を徹底取材。その魅力に迫ります。

大阪府立 園芸高等学校 バイオ部

ある時は白衣に身を包み、研究や実験に打ち込む。ある時は校内の庭園を歩き、作物や野草を収穫して皆で味わう。一般的な高校にはない農業高校ならではの部活動で青春を謳歌している、大阪府立園芸高等学校バイオ部の部員たち。優れた研究実績だけに留まらない、ユニークな部の魅力を探った。



(写真左上)培養実験中の植物のサイズは、定期的に測定して記録。(写真右上)サボテンのインピト・プランツは文化祭等で販売も。(写真下)ともに3年生の古谷菜摘さんと橋本英和さん。古谷さんは生鮮食品の小売店への就職、橋本さんは私立大学農学部への進学を予定している。



西村秀洋先生は、「バイオ班」を担当。生徒の興味関心を研究として成立させるため、立案から発表までをきめ細かくサポートする。



「たべもの班」の担当顧問、谷本忠芳先生。研究や実験だけでなくさまざまな活動を通じて「農業は種まきから胃袋まで」の考え方を指導。

自らの興味関心をきっかけに探求的な学びを深め 貴重な経験を通じて成長する。

「バイオ班」と「たべもの班」に分かれて活動する12名の部員たちの表情からは気負いなど一切感じられない。活動の拠点である研究室の雰囲気も、実に和やかで活気があふれている。そんな感想を伝えると、「バイオ班」の西村先生は穏やかな笑顔でこう答えてくれた。「生徒たちは、普通科目の学習だけでなく、農業というあらかじめ答えが用意されていない課題に日々向き合っています。授業を離れても、仲間と一緒に課題を掘り下げて新しい何かを発見することが楽しくて仕方がないんですよ」

一方、「たべもの班」の谷本先生は、研究だけに留まらない部の活動が、生徒たちの充実感やエネルギーにつながっていると話す。

「私の恩師の言葉に『農業は種まきから胃袋まで』というものがあります。私もその通りだと思いますので、活動内容は研究だけに留めていません。野菜を栽培したり、料理を作ったり、雑草や野生のキノコを食べたり、そういう活動の一つひとつを通じて、生徒たちが何かを掴んでいるんだと思います」

他の高校やクラブにはない 貴重な体験を重ねる喜び。

そんな顧問の先生方に見守られながら、部員たち自身も活動を通じて何かを見出しているようだ。

「研究実験はもちろん、自分たちで育てた野菜で料理を作って食べたり、文化祭で販売したりすることは、他のクラブではできない貴重な体験だと思います」



(上) 無菌状態で、サボテンやシダ、コケなどの培養実験。研究実験室に集合した部員たち。「バイオ班」と「たべもの班」に分かれ、それぞれに顧問の先生がついて活動をサポートする。(下) アオサの糖化・発酵に関する研究発表資料を作成。さまざまな実績を残す研究者たちも、白衣を脱げばごく普通の高校生だ。

一般的な部活動とは一線を画す 農業高校ならではの研究部。

1915年に設置された豊能郡立農林学校をルーツに、100年にわたる長い歴史を重ねてきた大阪府立園芸高等学校。2012年度には、岐阜農林高等学校(岐阜)、西条農業高等学校(広島)とともに、農業高校として全国初となる文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(SHS)」の指定を受けた。現在は「フラワーファクトリ科」「環境緑化科」「バイオサイエンス科」の3学科構成で農業系専門高校ならではの科学技術教育を推進し、生徒の研究発表活動支援にも注力している。

課外における部活動も活発で、体育系・文化系の生徒会クラブに加え、学校農業クラブとして学科ごとにさまざまな専門部が設けられ、生徒たちが学びを深めてきた。そんな中、独自のテーマで調査研究などに取り組むユニークな部がある。1960年に発酵部として創部以来50年以上続く、バイオサイエンス科の専門部、バイオ部だ。直近ではカビ酵素の研究で、2016年度の日本ストックホルム青少年水大賞審査部会特別賞を受賞したほか、さまざまな研究発表で高い評価と熱い注目を集めている。

答えが用意されていない課題を仲間と一緒に掘り下げてゆく。

学外の研究者からも一目置かれる同部だが、「バ

そう話すのは、「たべもの班」3年生の古谷菜摘さん。また、「バイオ班」3年生の橋本英和さんも、「自分たちの研究結果に対するさまざまな意見や考え方に触れられることが、大きな刺激になっています。他の学校やクラブでは得られない財産ですね」と一般的な部活動にはない魅力を語ってくれた。

試合や大会での勝敗や結果を追求するのではなく、自らの興味関心をきっかけに仲間との研究や活動を通じて貴重な経験を重ねてゆく高校生研究者たち。その姿は、実に快活で頼もしさに満ちあふれている。歴史ある部のユニークな取り組みに触れ、高校部活動の意義と素晴らしさを再認識した。



研究実験室に併設された無菌室の内部。棚の上には、培養中の植物をはじめ各班で進行している実験のピーカーや試験管が整然と並べられている。

大阪府立 園芸高等学校

- 創立 1915年
- 生徒数 557名 (2016年12月現在)
- 住所 大阪府池田市八王寺 2-5-1

